

新潟市の計画・制度制約等

1 上位計画等の確認

新潟市の計画との関連性

新潟市の概要・上位計画

- ・目指す都市像を「田園の恵みを感じながら心豊かに暮らせる日本海拠点都市」と定める。
- ・「食と酒」「みなとまち文化」を観光の核と位置付ける。
- ・新潟駅周辺、万代・万代島地区、古町地区を中心とした都市機能集積が求められている。

古町地区の概要

- ・みなとまち文化の体験拠点
- ・回遊性向上の中核施設
- ・商業・観光機能の再生
- ・文化創造・交流空間
- ・都市機能の強化

西堀地下施設の概要

- ・県内随一の繁華街であった古町に、路上駐車対策として、「地下に商店街を併設した駐車場」を建設
- ・商業の中心が古町から、駅、万代、郊外エリアに移り、古町・西堀地下施設は衰退
- ・西堀地下施設は、「にいがた2km」エリアの中に存在し、古町地区の拠点として位置づけられる

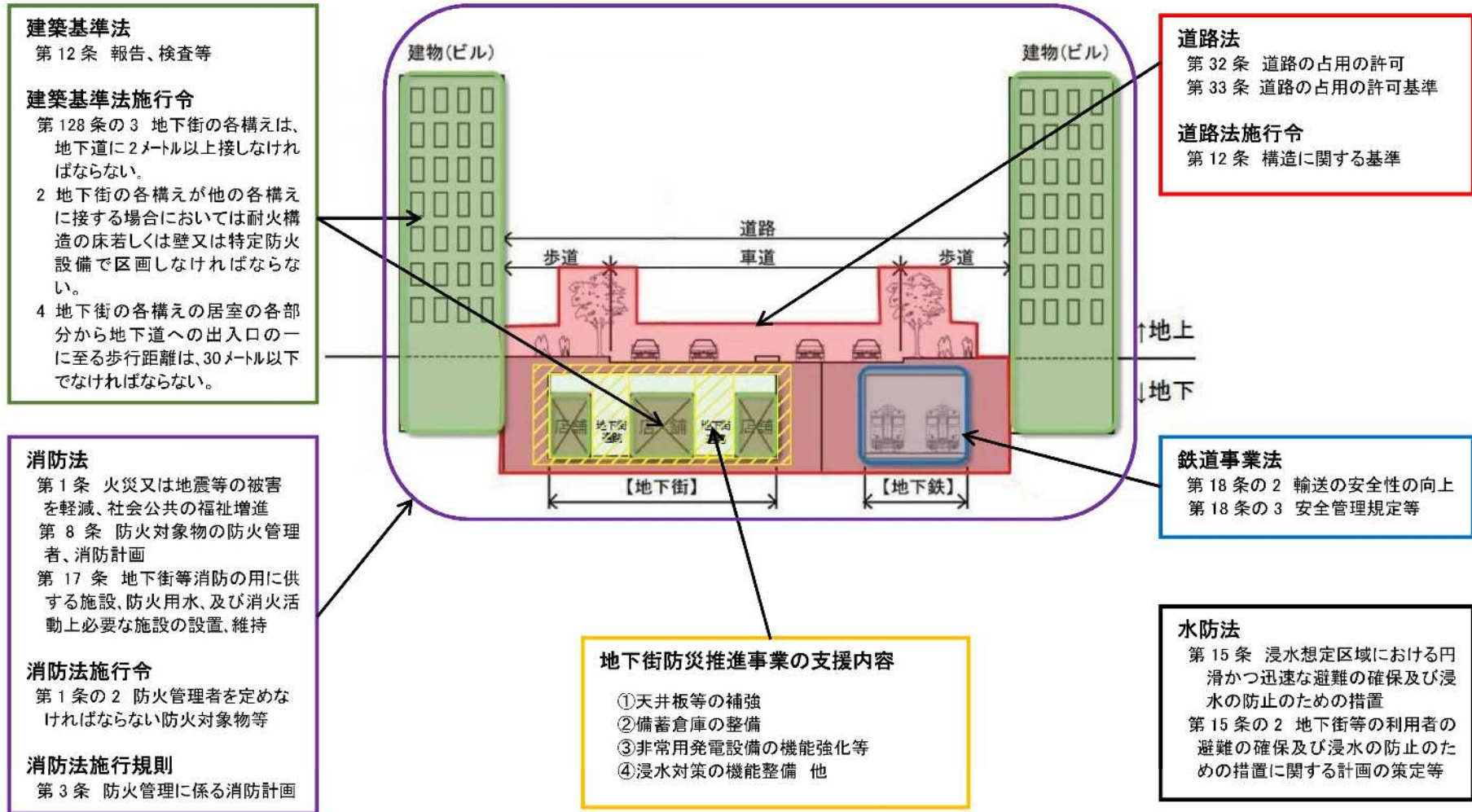
課題の整理

- ① 「食と酒」「みなとまち文化」をはじめとした、古町エリアの持つ価値の向上や、地域課題解決に繋げる必要性。
- ② 古町や西堀地下施設に求められる都市機能は変化しており、西堀地下施設単体ではなく、エリア全体で計画検討を進める必要性。
- ③ 地下空間の特性を活かした、都市機能の再編集を視野に入れた計画が必要。

検討すべき要素

- ① 今後の社会的ニーズ、地域の将来像と適合した用途
- ② 市の計画や、古町地区のエリアビジョンと整合的か
- ③ 施設運営の持続性が担保される計画か(収支の見通しが立つか)

主な地下街の関係規定等



法規 2

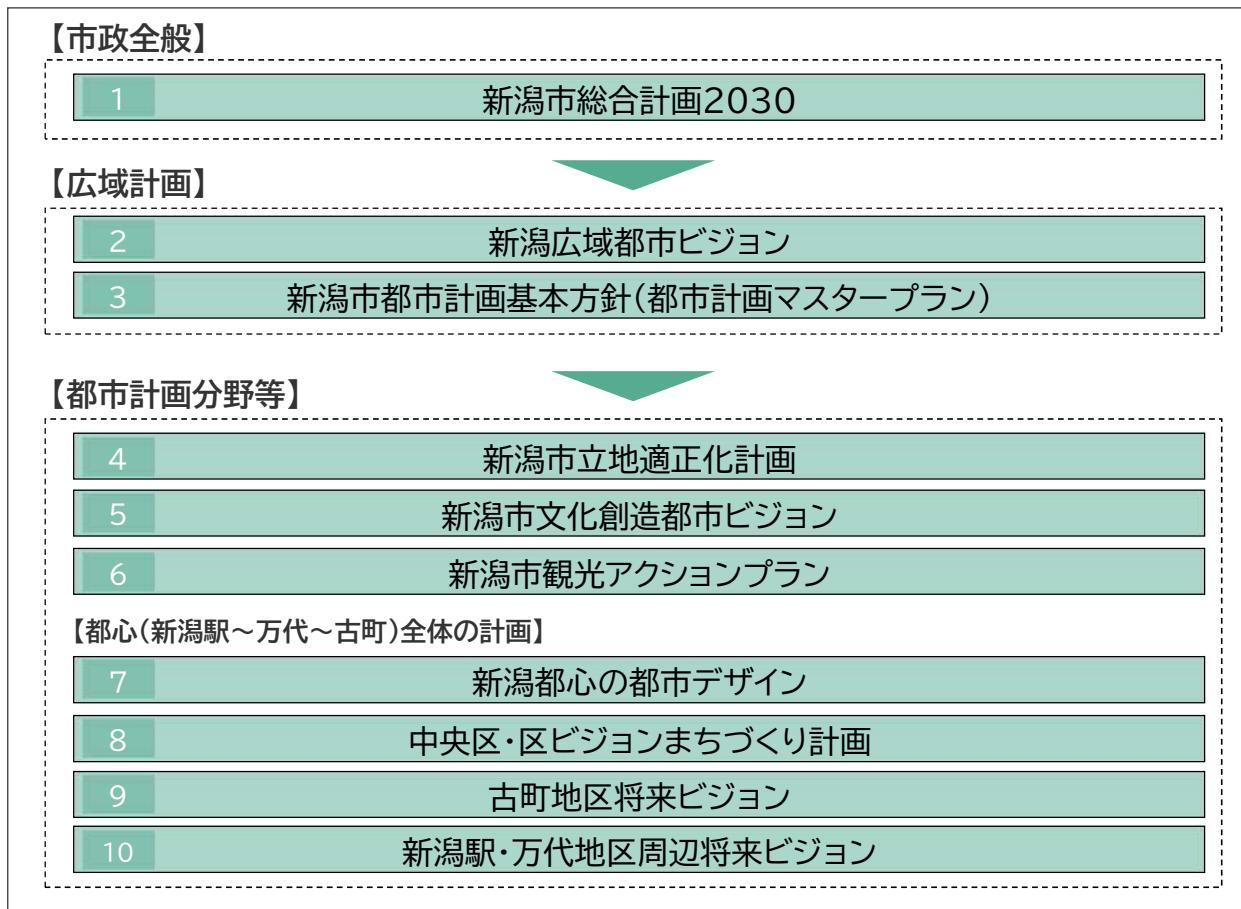
国土交通省「地下街の安心避難対策ガイドライン(令和2年3月改訂)資料編」より抜粋

3 資料(新潟市の計画など)



3 資料(新潟市の計画など)

さらに、今後の利活用方針を検討するにあたり、当該地下施設の広域的な位置付けを把握するとともに、想定される活用パターンを整理するため、関連する上位計画等について体系的に整理した。



3 資料(新潟市の計画など)

関連上位計画における当該地下施設の位置づけ等について、以下のとおり整理を行った。

【1. 新潟市総合計画2030】

都市機能の充実と拠点性向上【「にいがた2km」の覚醒】。
交通ネットワークの強化・充実。
文化芸術特性を活かした誘客、観光振興、福祉・産業連携。

【2. 新潟広域都市ビジョン】

新潟市を核とした12市町村連携。人口減少下での広域経済成長・拠点性強化を推進。
観光振興・情報発信や公共交通ネットワークの確保を重視。

【3. 新潟市都市計画基本方針(都市計画マスタープラン)】

「多核連携都市 新潟」の実現。都心機能誘導区域の一つとして古町を位置づけ。
古町の商業機能低下と空き店舗増を課題として掲げている。

【4. 新潟市立地適正化計画】

公共交通沿線への居住・機能集約を図るコンパクトシティ方針。
古町を都市機能誘導区域に設定し、商業・文化拠点の維持・再生を重視。

【5. 新潟市文化創造都市ビジョン】

文化芸術を通じて市民の暮らしとまちの活性化を図る。
古町芸妓など「みなとまち文化」を核に観光・産業・教育等へ展開。

【6. 新潟市観光アクションプラン】

「食と酒」「みなとまち文化」を観光の核とし、古町芸妓・歴史的街並みを重要資源に位置づけ。
周遊促進・体験型観光の強化を方針とする。

【7. 新潟都心の都市デザイン】

「水辺と共生する都市」「人が回遊しやすい都市」。
古町の文化拠点化と西堀ローサ再生を都心デザインの重点に位置づけ。

【8. 中央区・区ビジョンまちづくり計画】

「にぎわう都心」を目指し、古町を歴史・文化の象徴として再生。
空き店舗活用・まち歩き促進・古町ルフルなどと連携。

【9. 古町地区将来ビジョン】

コンセプト「つながりを育む歴史まち」。
歴史的建造物保存、芸妓文化継承、既存ストック活用、回遊性向上を重視。
西堀は「堀の歴史を次代に伝える空間づくり」として言及。

【10. 新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン】

「にいがた2km」の核として駅・万代と古町をつなぐ回遊軸を整備。
西堀ローサについて直接記載はないが、古町回遊強化と一体で来訪者増に寄与。

■西堀地下施設の位置づけ

西堀地下施設は、各上位計画で強調される「にいがた2km」エリアの中で、古町地区の歴史性と新たな価値創造を結ぶ重要拠点として位置づけ

3 資料(新潟市の計画など)

【市政全般】1. 新潟市総合計画2030(2023年3月)

- 本計画は「新潟市総合計画」として、新潟市における最上位計画に位置付けられるものであり、令和5(2023)年度から令和12(2030)年度までの8年間としている。
- 本計画は、持続可能な開発目標(SDGs)と一体的に推進することを基本方針とし、将来世代まで心豊かに暮らし続けられる新潟市を築くため、目指す都市像の実現とSDGsの達成への貢献を同時に追求するものであり、8つの分野別政策・施策、区ビジョン基本方針、持続可能な行財政運営の方針、10の重点戦略により構成されている。

1) 都市像

本市が目指す都市像を「**田園の恵みを感じながら心豊かに暮らせる日本海拠点都市**」と定める。

2) 基本理念

本市のまちづくりは、「活力あふれるまちづくり」と「持続可能なまちづくり」を二本の柱とし、新潟への誇りと愛着を土台として、**市民や多様な主体とのパートナーシップのもと**、新潟市の強みを活かし総力を挙げて推進するものとする。

3) 都市像の具体的なイメージ



4) 10の重点戦略

- 戦略1: 都市機能の充実と拠点性の向上
都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】、交通ネットワークの強化・充実 等
- 戦略2: 地域企業の経営力強化、新たなビジネスや成長産業の創出・育成
起業・創業しやすい環境づくり、社会の変化を見据えた新規事業創出の支援、戦略的な企業立地・誘致の推進 等
- 戦略3: 豊富な田園資源を活かした儲かる農業の実現
新たな需要に応える農産物の生産体制強化、スマート農業技術の導入促進 等
- 戦略4: 魅力と拠点性を活かした交流人口の拡大
持続可能な観光の推進とおもてなし態勢の強化、特色ある文化芸術で地域振興、新潟の個性・魅力と拠点性を活かした誘客の促進
- 戦略5: 新潟暮らしの魅力発信と多様な支援による移住・定住の促進
市内への就労促進、移住定住(U・I・J ターン)の促進、関係人口の創出 等
- 戦略6: 誰もが個性と能力を発揮しながら、心豊かに暮らせる社会の実現
地域団体・市民団体の活動支援、地域での支え合いの推進 等
- 戦略7: 子どもと子育てにやさしいまちづくりと新潟の将来を担う人材の育成
妊娠・出産・子育て期の包括的な支援、社会全体で子育てを応援する機運の醸成 等
- 戦略8: 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現
働き方改革など職場環境の整備、多様な就労の機会の創出 等
- 戦略9: 脱炭素・循環型社会の実現
脱炭素社会の実現に向けたライフスタイル転換の推進、省エネ・再エネの推進 等
- 戦略10: 安心・安全で災害に強いまちづくり
地域防災力・減災力の向上、雨に強いまちづくりと耐震化 等



出典: 新潟市総合計画2030、令和5年3月、新潟市政策企画部政策調整課

3 資料(新潟市の計画など)

【広域計画】2. 新潟広域都市ビジョン(2025年3月)

- 人口減少・少子高齢化に対応し、行政サービスを効率的に提供するとともに、経済競争に勝ち抜くために「連携中枢都市圏」として広域での成長と魅力向上を目指す。新潟市は平成28年に「連携中枢都市宣言」を行い、広域都市圏の核として役割を担う。本計画は第3期として、2025年度から2029年度までとしている。
- 本計画は、12市町村(新潟市、三条市、新発田市、加茂市、燕市、五泉市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、阿賀町)を構成市町村としている。

1) 将来像

対岸諸国と首都圏とを結ぶ本州日本海側の拠点地域として圏域全体の経済を活性化し、それぞれの市町村の都市機能や自然環境等の魅力を高め、人々が誇りを持って住み続けたいと思えるような圏域を創造を目標としている。

2) 現状と課題

(1) 人口動態

圏域全体で減少傾向(2005年132万人 → 2040年推計102万人)。新潟市も自然減・社会減ともに継続。

(2) 経済

卸売・小売業、製造業、医療福祉の比率が高い。新潟市・三条市・燕市が製造業付加価値の6割以上を占める。開業率が全国平均を下回る一方、農業は米中心で高いシェアを維持。

(3) 観光

圏域全体の観光入込数は県全体の約4割、新潟市は年間1,340万人超。主要拠点は「ふるさと村」「ピアBandai」「マリニピア日本海」など。

【新潟県内における圏域位置図】



各市町村別 付加価値額・従業員数

市町村	付加価値額		従業員数	
	万円	(%)	人	(%)
新潟市	41,670,246	(42.3%)	38,433	(37.8%)
三条市	3,584,517	(9.9%)	13,744	(13.6%)
新発田市	4,400,358	(6.6%)	7,111	(7.0%)
加茂市	2,029,219	(2.1%)	2,932	(2.9%)
燕市	14,953,443	(14.5%)	17,030	(16.8%)
五泉市	5,103,920	(5.2%)	5,347	(5.3%)
阿賀野市	4,201,918	(4.4%)	4,389	(4.3%)
胎内市	5,582,967	(5.5%)	3,973	(3.9%)
聖籠町	5,403,907	(5.5%)	5,412	(5.2%)
弥彦村	764,190	(0.8%)	1,170	(1.2%)
田上町	413,525	(0.6%)	1,279	(1.3%)
阿賀町	260,599	(0.3%)	547	(0.5%)
圏域合計	97,994,997	(100.0%)	101,411	(100.0%)

※従業員数4人以上の事業所を集計

従業員1人あたり付加価値額



観光入込客数



(資料) 新潟県「新潟県観光入込客統計」

3) 新潟市を中心とした圏域の特徴

(1) 経済的中心性

- 製造品出荷額: 圏域全体の約42%が新潟市
- 卸売業年間商品販売額: 圏域全体の約77%が新潟市に集中
- 小売業年間商品販売額: 圏域全体の約68%が新潟市
- 農業産出額: 圏域全体の約43%(569.9億円)で圏域最大

(2) 都市機能の集積(新潟市)

- 高等教育機関: 8大学、4短期大学、1大学院大学など圏域の教育拠点
- 医療機関: 三次保健医療圏の中核として高度医療機能を提供
- 交通拠点: 新潟空港、新潟港(国際拠点港湾)、上越新幹線、高速道路網の結節点
- 行政機関: 国の地方機関、県庁所在地として多数の広域行政機能が集積

4) 取組の方向性(新潟市の役割を中心に)

新潟市が連携中枢都市として、周辺市町村と協力しながら、人口減少社会においても持続可能な圏域づくりを進めることを目的としており、新潟市の拠点性を活かした広域連携の推進が核となっている。

(1) 圏域全体の経済成長のけん引

- 産学官民一体での成長推進(ビジョン懇談会で進捗管理)
- 創業支援、企業成長促進、販路拡大
- 地域資源を活かした商品開発と観光振興(MICE含む)
- 国内外に向けた情報発信強化

(2) 高次都市機能の集積・強化

- 新潟市を拠点に高度医療の提供、救急体制整備
- 新潟駅・新潟港・新潟空港などアクセス拠点の整備
- 高等教育・研究機関の環境整備と成果活用

(3) 生活関連機能サービスの向上

- 地域医療・在宅医療、福祉サービスの充実
- 公共施設の相互利用による教育・文化・スポーツの振興
- コンパクトシティの推進
- 公共交通ネットワークの確保と利便性向上
- 防災・減災体制の構築、脱炭素・循環型社会の推進
- 地産地消や移住・定住の促進、人材育成・自治体間交流

出典: 第3期新潟広域都市圏ビジョン、令和7年3月、新潟市政策企画部

3 資料(新潟市の計画など)

【広域計画】3. 新潟市都市計画基本方針(都市計画マスタープラン)(2023年3月)

- 新潟市都市計画基本方針は、2032年を目標年次として「市街地と田園・自然の多様な魅力が人をつなぐ多核連携都市 新潟」の実現を目指し、人口減少局面において持続可能な都市の発展と市民の暮らしやすさの実感を目的としている。
- 都市づくりの視点として、①人口減少社会への適応、②人口減少の緩和、③持続可能性、④安心・安全、⑤暮らしやすさの5つを掲げている。

1) 将来像

本市の都市づくりにおける基本理念は、次の二点に整理される。

- ①全市レベルにおいては、人口減少や社会環境の変化に対応しつつ、**既存ストックや新技術の活用を通じて、持続的に発展する都市を形成**すること。
- ②地域レベルにおいては、地域の個性や歴史・文化を尊重しながら、誰もが安心して暮らし続けることができる、多様で魅力ある地域社会を実現すること。



図 拠点とネットワークによる都市構造のイメージ図



図 都市構造概念図

2) 現状と課題

- ・人口減少・少子高齢化の進行
- ・空き家増加公共交通の空白地や利便性不足
- ・災害リスク(洪水・津波等)
- ・**都心の通行量や商業地価の低迷**

3) 5つの基本方針

- (1)基本方針1: 多様な拠点がネットワークでつながる多核連携都市
都心の魅力と価値向上、地域のまちなかの活気創出、機能別拠点の形成、道路・公共交通ネットワーク構築

(2)基本方針2: 国内外とつながる活力あふれる産業・交流都市

魅力的な産業創出を支える都市環境整備、地域資源の活用と都市魅力向上、国際・広域拠点機能強化

(3)基本方針3: 田園・自然と市街地が共生・共鳴する環境・安全都市

田園・自然と市街地の共生都市構造維持、豊かな田園・自然環境の保全
脱炭素型都市づくり、緑豊かで潤いある都市環境形成

(4)基本方針4: それぞれの地域で安心して暮らし続けることができるまち

便利なまちなか形成、生活圏での快適な移動環境整備、安全で快適な住環境づくり

(5)基本方針5: 地域の個性を活かした多様な暮らし方ができるまち

都市と農村の交流による新たな価値創造、多様な暮らし方ができる住環境整備

4) 区別方針

各区それぞれの特性を活かした区づくりの方向性を示している

- ・北区: 水の恵みに育まれた発展するまち
- ・東区: 産業と多様な魅力が調和するまち
- ・**中央区: にぎわう都心、みなとまち文化が織りなす活気あふれる拠点のまち**
- ・江南区: 緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち
- ・秋葉区: 里山と水に囲まれ花と緑あふれる笑顔咲きそろうまち
- ・南区: 風と大地の恵みに新たな希望が芽吹く、郷土愛あふれるまち
- ・西区: 快適なくらしと、豊かな自然や食が調和する、住み心地のよいまち
- ・西蒲区: 豊かな自然、歴史と文化のかおりに満ちあふれ、人と人とがあたたかくつながるまち



出典: 新潟市都市計画基本方針、令和5年3月、新潟市都市政策部 都市計画課

3 資料(新潟市の計画など)

【都市計画分野等】4. 新潟市立地適正化計画(2017年3月)

- 本計画は、新潟市が2017年3月に公表した「新潟市立地適正化計画」で、人口減少・超高齢化社会に対応した持続可能な都市づくりを目指す計画である。
- 都市の現状・課題整理、居住誘導区域や都市機能誘導区域の設定方針、評価と改善の考え方が体系的にまとめられている。

1)現状と課題

- 人口動向: 平成17年の約81.4万人をピークに減少傾向。平成52年には約66.8万人まで減少見込み
- 高齢化: 高齢化率は平成27年の約27%から平成52年には約40%以上に上昇予定
- 市街地の拡散: DID(人口集中地区)面積は拡大傾向にあるが、人口密度は低下

2)基本方針(3つの柱)

- 方針1: 快適な田園暮らしの充実
田園集落の維持・活性化、地域拠点の機能強化
- 方針2: 広域交流拠点としての強化
新潟駅周辺、万代・万代島地区、古町地区を中心とした都市機能集積、広域交通ネットワークの活用
- 方針3: 多核連携の充実と自立
8つの区による多核連携型都市、各区の特色を活かした機能分担

3)都市構造の方向性

- コンパクトシティを志向し、公共交通結節点周辺への居住・機能集約を推進。
- 「居住誘導区域」と「都市機能誘導区域」を設定し、効率的な都市運営を図る。

(1)居住誘導区域の設定

- ・既存の公共交通網(BRT・鉄道・バス)の沿線を軸に居住を誘導。
- ・医療・福祉・商業機能がまとまるエリアへの居住推進。

(2)都市機能誘導区域の設定

- ・中心市街地(古町・万代)、新潟駅周辺を重点。
- ・商業・業務・文化の集積を維持しつつ、衰退地域の再生を図る。

4)古町に関連内容

(1)現状と課題

- ・商業機能の低下: 大型商業施設の撤退(大和百貨店、三越等)により商業機能が低下
- ・歩行者通行量の減少: ピーク時と比較して大幅に減少
- ・空き店舗の増加: 中心市街地の空洞化が進行

(2)将来ビジョン

- ・都心機能誘導区域の中核: 新潟駅周辺、万代地区と並ぶ3大拠点の一つ
- ・歴史・文化の拠点: 花街文化、老舗、歴史的建造物等の地域資源を活用
- ・商業・業務機能の再生: 既存ストックを活用した機能更新



5)西堀地下施設に関する内容

古町地区全体の回遊性向上の観点から、西堀口一サを含む地下空間の有効活用が言及されている

- ・位置づけ: 古町地区の商業機能の一部として認識
- ・課題: 地下商業施設の活性化が必要
古町地区全体の回遊性向上の観点から、西堀口一サを含む

3 資料(新潟市の計画など)

【都市計画分野等】5. 新潟市文化創造都市ビジョン(2024年3月)

- 本計画は、2024年3月に策定された「新潟市文化創造都市ビジョン」で、2024年度から2031年度までの8年間を対象期間とする文化芸術政策の指針である。
- 新潟市総合計画2030を文化芸術の観点から補完し、「文化芸術によって育まれた、市民一人ひとりの心の豊かさやいきいきとした暮らしが、将来にわたってまち全体を活性化している」を基本理念とし、「心の豊かさ」、「いきいきとした暮らし」、「まち全体の活性化」を3つの視点から、市民一人ひとりの将来像を設定している。

1) 基本理念

「文化芸術によって育まれた、市民一人ひとりの心の豊かさやいきいきとした暮らしが、将来にわたってまち全体を活性化している」

2) 施策推進上の3つの視点

(1) 視点1: 心の豊かさ

- ・文化芸術によって市民の感動や発見が引き出されている
- ・市民が「受け手」「つくり手」「担い手」として主体的に関わる

(2) 視点2: いきいきとした暮らし

- ・文化芸術によって人と人とがつながり、地域の豊かさが高まっている
- ・多様な価値観に触れ、地域コミュニティに積極的に参画

(3) 視点3: まち全体の活性化

- ・市民が触発され、創造された新たな価値がまち全体を活性化している
- ・新潟の特色ある文化を誇りに思い、新たな価値を生み出す

施策推進上の3つの視点

将来像

<p>心の豊かさ</p> <p>文化芸術によって市民の感動や発見が引き出されている</p>	<p>市民一人ひとりが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 文化芸術の「受け手」であり、「つくり手」「担い手」でもあることを意識することで、自らの感性をより豊かに伸ばし、自分らしく表現している。 ● 文化芸術への興味関心を高め、主体的・能動的な関わりを深めている。
<p>いきいきとした暮らし</p> <p>文化芸術によって人と人とがつながり、地域の豊かさが高まっている</p>	<p>市民一人ひとりが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 多様な価値観に触れ、他者と相互に感性や表現を交わすことで、自身の役割を見つけ、地域コミュニティやネットワークに積極的に参画している。 ● 地域に根ざした文化や文化財等との各々の結びつきに気づき、学びを得ることで、地域の風景や風土、歴史を共有し、将来世代に引き継いでいる。
<p>まち全体の活性化</p> <p>文化芸術によって市民が触発され、創造された新たな価値が、まち全体を活性化している</p>	<p>市民一人ひとりが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新潟の特色ある文化に加え、個々の主体的な文化芸術活動をまちの魅力として誇りに思い大切にしている。 ● 文化芸術を自在に活用し、活動や交流の幅を広げながら新たな価値を生み出している。

5) 具体的な施策体系(総合計画2030との関係)

- (1) 施策1: 文化芸術活動の活性化(市民参加・鑑賞機会拡充、文化施設の拠点性強化)
- (2) 施策2: 子どもの感性・創造力の育成(芸術文化体験、教育連携)
- (3) 施策3: 文化財等の保存・継承(歴史的資産や伝統芸能の保護と担い手育成)
- (4) 施策4: 文化芸術特性の多面的展開(観光誘客、福祉・産業連携、国際交流など)

総合計画 政策2 文化	事業の目的			
	施策1 文化芸術活動の活性化	施策2 文化芸術による子どもの 豊かな感性や創造力の育成	施策3 文化財等の保存・継承	施策4 文化芸術特性の多面的展開
ビジョン	文化芸術活動の活性化 市民が文化芸術に 関与する機会を創出	文化芸術による子どもの 豊かな感性や創造力の育成 文化芸術の鑑賞・ 体験機会の創出	文化財等の保存・継承	文化芸術特性の多面的展開 文化芸術特性を幅広く活用
心の豊かさ	・市民参加、市民交流などの 公開事業 ・アーティストや市民による ワークショップや講座による 参加型事業など	・子ども向けの芸術文化体験事業 (オーケストラはキミのともだち コンサート、学校訪問(アウリー ア))	・宝篋山から一統の伝説基盤が薫る和歌集 「アト・ミックス・ジャパン」(共編)	・創作・発表機会を高める「にいがたマン ガフェスティバル」
いきいきとした暮らし	・市民参加型プロジェクト (アートイベントを通じた 地域における交流関係の創 出)【取組】 ・「わらアートまつり」【取組】 ・「お祭り文化創造推進委員会 」【取組】	・ゆいぽーとにおけるア ーティスト・イン・レジデ ンス事業(芸術家の滞在制作 活動支援、市民交流等)	・「みさとまち文化を通じた地域振興(田 代、長岡)」並びに「ふるさとア ート」【取組】	・「ふるさと文化創造推進委員会」の 活動による市民参加型文化 活動の推進【取組】
まち全体の 活性化	・「まちあるき事業 (市民によるガイドツアー、 まち歩きツアー等)」 【取組】	・3つの専門チームを活用する 「まちあるき事業」(芸術・文化 や観光・福祉、産業・経済 連携)【取組】	・「ふるさと文化創造推進委員会」 の活動による市民参加型文化 活動の推進【取組】	・「ふるさと文化創造推進委員会」の 活動による市民参加型文化 活動の推進【取組】

※上は令和7年度事業から抽出しています。 ※【】は各局の所管・所掌事業 ※特色 ※取組 ※取組内容

5) 古町に関連する主要な内容

(1) 古町芸妓の位置づけ

- ・日本遺産の構成文化財として「古町芸妓」が明記されている
- ・「みさとまち文化を通じた地域振興」の一環として、北前船、日和山、白山神社、古町芸妓、日本舞踊市山流などが活用対象として挙げられている

(2) まちづくりとの連携

- ・文化芸術特性を「観光や産業、まちづくり、国際交流、福祉、教育などの分野」に幅広く活用することが基本方針として示されている

(3) 地域振興への活用

「特色ある文化を活用した誘客事業」として、踊り、マンガ・アニメ、鉄道文化等と並んで、みさとまち文化(古町芸妓を含む)が観光誘客の資源として位置づけられている

※西堀口一サについて直接的な言及はないが、文化施設の拠点性の発揮という施策の中で、市内の文化施設の活用が掲げられている。

出典: 新潟市文化創造都市ビジョン、令和6年3月、新潟市文化スポーツ部 文化政策課

3 資料(新潟市の計画など)

【都市計画分野等】6. 新潟市観光アクションプラン(2025年4月)

- 本計画は、新潟市が2025年度から2026年度までの2年間で実施する観光振興の行動計画である。観光をめぐる状況の変化に対応し、より柔軟かつ具体的な観光施策を推進することを目的としている。
- 「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録や「伝統的酒造り」のユネスコ無形文化遺産登録により、新潟市を含む観光機運が高まる。ただし、新潟市の集客は近隣都市と比較して弱く、中央区への一極集中や周遊不足、飲食利用率の低さなど課題も顕著である。

1)現状

- ・来訪者数の課題: 他都市と比較して県外・海外からの来訪者が少ない
- ・消費額の低迷: 一人あたりの利用金額が他都市より低い(新潟市11,147円、A市17,469円、B市13,550円)
- ・中央区への一極集中: 来訪者の約8割が中央区のみを利用、市内周遊が少ない
- ・飲食店利用率の低さ: 「飲食店・居酒屋」の利用割合が他都市の約1/3

市内エリア別利用率



2)新潟市観光の強み

- ・食と酒の魅力: 日本酒(15の酒蔵)、新鮮な海産物、多様な食文化
- ・みなとまち文化: 開港150周年の歴史、古町芸妓などの伝統文化
- ・8区の特徴ある観光資源: 各区独自の観光コンテンツ
- ・ゲートウェイ都市機能: 陸海空すべての交通手段を有する利便性
- ・MICE開催地: 朱鷺メッセ、デンカビッグスワンスタジアムなど大規模施設

出典:新潟市観光アクションプラン、令和7年4月、新潟市観光・国際交流部 観光政策課

3)目指す姿(3つの柱)

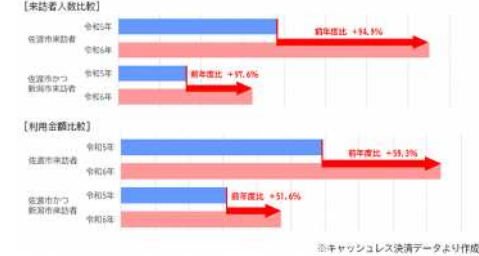
- ・新潟市観光のイメージ定着化: 「食と酒」「みなとまち文化」を核とした観光コンセプトの明確化
- ・「他人事」から「自分事」への意識転換: 市民全体がホストとして観光振興に関わる
- ・付加価値のあるコンテンツづくり: 体験型観光(コト消費)の創出

4)ターゲット層(3つの重点層)

- ・推し活を目的とした来訪者: MICE施設利用者のリピート率の高さを活用
- ・ミドルエイジ以上の女性層: 消費単価が高く、取り込み余地が大きい
- ・東アジア圏の訪日リピーター: 佐渡島の世界文化遺産登録効果を活用

「佐渡島の金山」世界文化遺産登録の影響調査

①県外来訪者への影響



②海外来訪者への影響



5)古町に関する内容

- (1)みなとまち文化の象徴として、日本三大芸妓の一つに数えられた古町芸妓の存在、料亭料理や華やかな芸妓の踊りが堪能できる、港町の歴史とともに発展した料亭文化
- (2)歴史的街並みとして、当時の面影を残す寺町、豪商・豪農の館など歴史的建造物、フォトジェニックな街並みとして現存
- (3)具体的施策として、「次世代に向けた古町芸妓魅力発信事業」(中央区役所)「古町芸妓を活用した旅行商品助成事業」(新潟観光コンベンション協会)が掲げられている。

3 資料(新潟市の計画など)

【都市計画分野等】7. 新潟都心の都市デザイン(2019年5月)

- 本計画は、新潟市都心部における「都市デザインの方向性」を示している。歴史・文化・自然資源を踏まえつつ、都市機能や公共空間の再編により、都心の価値向上を目指す内容になっている。
- 特に、新潟都心の将来像として「水辺と共生する都市」「人が回遊しやすい都市」「文化・交流を育む都市」を掲げ、そのための空間整備や拠点形成の考え方が示されている。

1) 都市デザインの基本理念

- ・少子・高齢化に対応し、持続可能な都市になるため市民が集うにぎわい創出が必要
- ・拠点性向上のための都心部の役割の明確化
- ・中核的な業務・商業機能が集積する都市の魅力的な都市街地づくり
- ・**高次都市機能が集積した「都市の顔」の創造**

2) 新潟都心の都市デザイン

都市デザインの出発イメージ新潟駅から始まる新しい新潟の軸とは...

- ・信濃川に並行して掘と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は、信濃川に向かう新しい新潟の軸として、都市構造を構築する
- ・それぞれのエリアで特色あるまちづくりが展開され、通して歩けばこれまでの新潟の歴史を理解できるような軸を目指す(新潟駅~古町間で約2km)
- ・将来的には、この軸が新潟の都市イメージとなり、新潟にとっての「都市」のアイデンティティとなることを目指す

① 都市デザインの出発イメージ

新潟を特徴づけてきた、奉行所から始まる軸の都市づくりは、150年かけて新潟駅へとつながってきた。開港150周年を契機に、今度は新潟駅から、地域への愛着と誇りを醸成するような、人を中心とする新しい新潟の軸を考へる。

新潟駅から始まる新しい新潟の軸とは...

- かつて信濃川に並行して掘と通りが設けられ、それが新潟の都市構造となったように、今度は、信濃川に向かう新しい新潟の軸として、都市構造を構築する
- それぞれのエリアで特色あるまちづくりが展開され、通して歩けばこれまでの新潟の歴史を理解できるような軸を目指す(新潟駅~古町間で約2km)
- 将来的には、この軸が新潟の都市イメージとなり、新潟にとっての「都市」のアイデンティティとなることを目指す

イメージ

シヤンゼリゼ大通り(バード)約2km

都心軸(大坂道)約4km

② 新潟駅から始まる取り組み

旧市街ゾーン
江戸時代から続く小路であり、みなとまちの歴史や文化が感じられる通り

開化ゾーン
明治初期に立寄りで街として生まれた娯楽や現代感を含み、文字開化を感じさせる通り

新市街ゾーン
昭和の初期に信濃川を埋め立てて造られた以降、現代的な都市づくりが行われた。賑いを感じられる通り

玄関口ゾーン
都心軸で最も注目目設計された、新潟を訪れる人が、日本海側玄関の風格と機能を感じられる通り

都心軸

水辺ゾーン
信濃川・内港の水辺空間を、新潟独自の魅力として磨き上げ、まちなかのにぎわい空間として強化(交差軸)

新市街ゾーン
水辺・賑いゾーン
沿道の活況と強固な賑いを感じられる通り

都心軸
港・創造ゾーン
大規模商業的な空間とは性格が異なり、利かが創り出される商業空間が強く通り

新潟駅・万代広場ゾーン
風格と個性があり、人が集まりやすい機能と集まる空間。そこからまちなかへ歩き出したいくなる場を強化

3) 古町に関連する内容

- ・古町は、**新潟の歴史的な中心地として花街や文化資源が集積するエリア。**
- ・**現状は来街者減少や空き店舗の増加など課題が深刻。**
- ・方向性としては、**花街文化や歴史的建造物を活かした観光・文化拠点化。地下施設(西堀口ーサ)との一体的活用。歩行者中心の通り空間デザイン、イベント・祭りの展開による賑わい回復。**

4) 西堀地下施設に関連する内容

- ・西堀通の地下街「西堀口ーサ」は、**かつて古町の賑わいを支えた拠点。**
- ・**現状では空洞化・利用低迷が課題となっており、再生が都市デザインの重要テーマ。**
- ・地上部(古町通、西堀通)との一体的な整備を行い、**地下・地上が連続する新たな都市空間を構築する方向性。**
- ・単独施設としてではなく、「**古町の再生」「都心全体の回遊性強化」と一体で捉えること**が強調されている。開港から150年をかけて形成されてきた不動の軸(新潟駅~古町)、

次世代のアイデンティティとしていく

旧市街・開化ゾーン
○掘・通り一帯の賑わいを活かす
○みなとまちの歴史・文化的な街並みや花街文化・食文化を活用する
○様々な都市機能の集積・回遊によるまちづくり

水辺ゾーン
○水辺空間を新潟独自の魅力として磨き上げ、まちなかの賑い空間を創出する
○やすらぎ場と、橋・道路・建物といった水辺周辺の空間を一体的につなげる

都心軸

井天ルート(水辺・賑いゾーン)
○沿道の店舗と連携してイベントやオープンカフェにより、訪れた人がより開放的な賑いを感じられる
○新着らしさを感じながら水辺へと誘われる仕掛けづくり

東大通りルート(新潟駅・万代広場ゾーン)
○新潟を訪れる人々が都心軸を望む時、日本海側都市の風格が感じられる
○駅前広場から都心軸、水辺・賑いゾーン、掘・創造ゾーンへと導かれ、まちなかへ歩き出したいくなる

花園ルート(港・創造ゾーン)
○創作活動やパフォーマンスなど、新しく何が創りだされる雰囲気を感じられる
○駅から港へつながる空間づくりや、レンタルサイクルなどで楽しく夜間にアクセスできる環境を創出する

出典:新潟都心の都市デザイン、令和元年5月、新潟市都市政策部 都市計画課

3 資料(新潟市の計画など)

【都市計画分野等】8. 中央区・区ビジョンまちづくり計画(2023年3月)

- 本計画は、新潟市中央区における「区ビジョン まちづくり計画」であり、2023年度から2030年度までの8年間を計画期間とする都市計画の方針を示している。
- 上位計画である「新潟市総合計画」を踏まえた区レベルの計画であり、「にぎわう都心、豊かな自然、みなとまち文化が織りなす活気あふれる拠点のまち」を将来像、「賑わいと活気あふれ訪れたいくなる拠点のまち」、「共につながり安心して暮らせるまち」、「水と緑に囲まれた自然と都市が共生するまち」、「歴史と文化を受け継ぎ発展するまち」を4つの目指す姿として掲げている。

1) 中央区の特徴と課題

- 人口:180,345人(8区中最多)
- 面積:37.75km²(8区中最小)
- 高次都市機能が集積する都心部
- 信濃川、鳥屋野潟、日本海などの豊かな水辺環境
- 開港5港の一つとしての歴史的背景



2) 中央区の目指すがた

(1) 賑わいと活気あふれ訪れたいくなる拠点のまち

① 主な現状・課題

- 商店街の衰退(歩行者通行量減少、空き店舗増加)
- 文化・スポーツ施設は豊富だが連携不足、歩行者と自転車の錯綜、駐輪問題、新潟駅の南北分断

② 方針

- **まちなかの回遊性向上:**「にいがた2km」エリアでの高次都市機能集積、官民連携による萬代橋周辺の魅力的空間形成
- 商店街の形成:**新たなイメージづくり支援、多様なニーズへの対応**
- 文化・スポーツ・観光の充実:**まち歩きを通じた魅力発信**、万代島地区の活性化、マンガ・アニメ文化の発展
- 道路空間の再構築:ユニバーサルデザインに基づく整備、人中心のウォークアブルな空間形成
- 交通基盤の強化:新潟駅周辺整備、持続可能な公共交通ネットワーク構築

(2) 共につながり安心して暮らせるまち

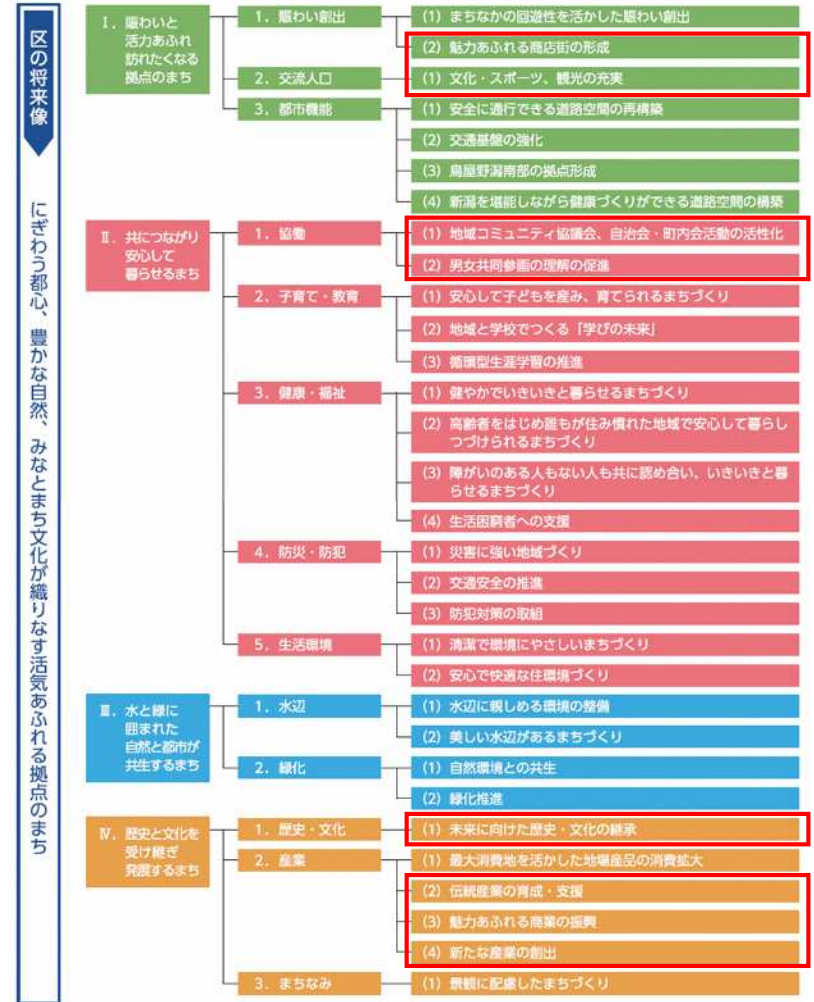
① 主な現状・課題

- 地域の連帯感希薄化、担い手不足、核家族率91.5%(8区中最高)で子育て世帯の孤立
- 障がい者グループホーム不足、交通事故が市全体の3割、特殊詐欺被害

② 方針

- 地域コミュニティ活性化:**将来の担い手育成、活動・団体運営支援、男女共同参画推進**
- 子育て支援:親の不安軽減、祖父母の育児参加促進、児童虐待防止
- 健康・福祉充実:生活習慣病予防、高齢者の地域支援システム深化、障がい者の地域生活支援、生活困窮者支援
- 防災・防犯強化:防災リーダー育成、ハード・ソフト一体の浸水対策、交通安全教育、防犯活動
- 生活環境改善:環境美化活動推進、空き家対策

出典:中央区・区ビジョンまちづくり計画、令和5年3月、新潟市中央区役所 地域課



3 資料(新潟市の計画など)

(3)水と緑に囲まれた自然と都市が共生するまち

①主な現状・課題

- ・ 豊かな水辺環境だが、ごみ不法投棄問題、まちなかの緑不足
- ・ 海岸林の防風・防砂機能不足

②方針

- ・ 水辺環境の整備:信濃川やすらぎ堤の景観づくり、関屋浜・日和山浜海水浴場の安全確保
- ・ 美しい水辺づくり:鳥屋野潟・海岸の清掃活動支援、環境美化活動推進
- ・ 自然環境との共生:クロマツ林の環境整備、海岸林再生、白山公園・鳥屋野潟の魅力発信
- ・ 緑化推進:街路樹保全、民有地緑化促進、季節の草花植栽

(4)歴史と文化を受け継ぎ発展するまち

①主な現状・課題

- ・ みなとまち文化の継承不足、伝統産業(新潟漆器、発酵食品)の発信力不足
- ・ 商業地の売上・集客減少

②方針

- ・ 歴史・文化の継承:学校での地域歴史教育、**まち歩き推進、古町芸妓・料亭文化の保護、マンガ・アニメ文化の充実**
- ・ **産業振興:地産地消推進、新潟漆器・発酵食品のPR、商店街活性化支援、産業DX・ICT推進**
- ・ **景観配慮のまちづくり:各地区特性を活かした景観形成、ユニバーサルデザイン推進**



新潟漆器



みそ造り

3)古町関連の内容

(1)古町地区の位置づけ

- ・ 「にいがた2km」エリアの一部(新潟駅周辺・万代・万代島・古町をつなぐ約2kmの都心軸)
- ・ みなとまち新潟の歴史・文化を象徴する地区

(2)古町の課題

- ・ 商店街の歩行者通行量の減少:平成29年から令和3年にかけて減少傾向
- ・ 空き店舗の増加
- ・ 商業の活性化が必要

(3)古町関連の施策・方針

①古町芸妓と料亭文化の保護・育成

- ・ 江戸時代後期から明治中期にかけて繁栄した**花街文化の継承**
- ・ 国の登録有形文化財である料亭(行形亭、鍋茶屋)の活用

②まちなみ整備

- ・ 古町花街地区の歴史的景観に配慮した小道の整備
- ・ 石畳の鍋茶屋通りなど風情ある景観の保全

③文化施設の活用

- ・ 「新潟市マンガの家」(古町地区)を中心としたマンガ・アニメ文化の発信
- ・ 「新潟市役所ふるまち庁舎」(古町ルフル内)の設置

④賑わい創出の取組

- ・ **商店街の新たなイメージづくり支援**
- ・ **空き店舗活用の促進**
- ・ **まち歩きの推進(「えんでこ」まち歩きなど)**

⑤古町ルフル

- ・ 令和4年3月にグランドオープンした複合商業施設
- ・ 古町ルフル広場の完成
- ・ 新潟市役所ふるまち庁舎が入居

3 資料(新潟市の計画など)

【都市計画分野等】9. 古町地区将来ビジョン(2020年3月)

- 本計画は、新潟市が2020年3月に策定した 古町地区の将来ビジョン であり、古町を「つながりを育む歴史まち」として再生していく方向性を示したものである。
- 上位計画「新潟都心の都市デザイン(2018)」を踏まえ策定し、古町の歴史・文化・都市機能を整理し、将来像と実現方針を明示している。
- 市民・事業者・商店街・まちづくり団体との協働を前提としたビジョンである。

1) 古町地区の特徴

- 町割りは江戸期(1655年)に整備され、360年以上大きく変わらず存続。
 - 歴史的建造物(県政記念館、旧新潟税関庁舎、萬代橋、旧齋藤氏別邸庭園等)や花街文化が残存。
 - 古町芸妓・料亭・割烹など、全国屈指の花街としての伝統。
 - 戦前から残る建造物の多さ、三業建築や町屋建築の集積。
- ▶古町地区の強みである趣や文化を守り活かし、さらに磨くことで、新潟の人々のまちへの愛着と誇りを育むとともに、交流人口の拡大や経済の活性化に結び付けける。

歴史

- 新潟町は、今から360年以上前の明暦元(1655)年に現在の場所に移転・整備されました。
- 当時、物流の幹線であった堀は現在道路に姿を変えています。町割りは360年以上変わらず当時のまま残っています。



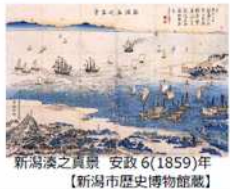
古町芸妓

- 江戸時代に発祥し、北前船や新潟開港により発展し、全国屈指の花街として京都祇園・東京新橋と並び称され、大正～昭和初期の最盛期には古町芸妓の数は300人を超えていました。
- 昭和62(1987)年、地元有力企業約80社の出資により「柳都振興株式会社」が設立されました。会社組織で芸妓を育成し、古町花柳界を支えています。



開港

- 新潟港は、開港5港に指定され明治元(1869)年に開港しました。北前船の寄港地として、近世の新潟は日本でも有数の商業都市でした。
- また、外国人の来港は新潟の近代化に大きな役割を果たし、新潟の人々と交流して、新潟の国際化の礎となりました。



歴史的建造物

- 古町地区には戦前に建てられた歴史的建造物が、幾度の大火や戦火をくり抜け今なお多く残っています。
- 古町通沿いに多い町屋建築のほか、古町8・9番町の新道沿いには三業[※]の建築とされる花街建築が残されています。



※三業とは・・・料理を作り提供する「料亭」、座敷を貸すが料理は作らない「茶屋」、芸妓が籍を置き居住する「置屋」、の花街を構成する3つの業種のこと

文化財

- 古町地区周辺には、文化財保護法に基づく3つの重要文化財(県政記念館、旧新潟税関庁舎、萬代橋)や2つの名勝(旧齋藤氏別邸庭園、白山公園)をはじめとした数多くの貴重な文化財が今まで守り伝えられています。



活動

- 「歴史的な建築物を残したい」、「堀を復活させたい」、「まち歩きでまちの魅力を伝えたい」など、古町への想いをもち、古町地区を舞台に、さまざまな活動をしている人たちがいます。これも古町の魅力の一つです。



2) まちづくりの3つの方針

- ① 300年を超えるみなとまち文化の価値を届ける
- ② 魅力が集う、文化交流舞台のまち
- ③ 住んで良し、訪れて良し、働いて良しの「ちょうど良い」まち

3) 実現に向けた7つの取組方針

- ① 歴史的な建造物・街並みの保存
古町花街エリアをはじめとする地域に多く残る歴史的な建造物や街並みの維持・保存に係る意識啓発、修景や活用促進などに取り組む。

- ② 古町芸妓など、みなとまち文化の継承

古町芸妓や食などのみなとまち文化を気軽に楽しめるコンテンツの充実や情報発信などを通じ、みなとまち文化の次世代への継承に取り組む。

- ③ 多様な地域資源の磨き直し

さまざまな地域資源を見つめ直し、改めて磨き上げることで、来街者や観光客、ファンを増やし、魅力的なヒト・モノ・コトの交流促進に取り組む。

- ④ 連携強化・回遊性の向上

都心軸のアクセス性などの機能強化や古町地区内の各エリア間の連携強化、一体感の創出、歩きたくなる・移動しやすい環境の整備などに取り組む。

- ⑤ 既存ストックの有効活用

空き店舗などのあっせんやまちの方向性に適した活用、リノベーションや文化・芸術などのコラボレーションによる新たな魅力の創出など、既存ストックの活用促進に取り組む。

- ⑥ 情報発信の強化

古町の魅力やみなとまちの歴史・文化などのブランディングに取り組み、新たな交流を生み出すとともに、シビックプライドの醸成などに取り組む。

- ⑦ 多様な主体との連携

古町に関わる人をはじめ、広く市民の皆さまとまちの方向性を共有し、多様な主体と連携・協力しながら取り組む。

3 資料(新潟市の計画など)

【都市計画分野等】9. 古町地区将来ビジョン(2020年3月)

4)5つのエリア

古町地区は通りや小路、昔あった堀などの要素によって町割りが構成されており、それらで区分されたエリアごとに特徴的な土地利用などがされている。



5)目指すすがた

- 古町花街エリア: 湊町新潟の歴史と文化が薫るまち
- 砦谷小路エリア: 新潟の今と歴史が交差する
- 古町モールエリア: ヒト・モノ・コトの交流舞台
- 本町エリア: 地元の味も人情も楽しめる
- 上古町エリア: 古さと新しさのある白山公園に続く文化門前町

6)西堀地下施設に関連する内容

西堀地下施設(西堀ローサ)について直接的な記載は見当たらないが、西堀に関しては以下の歴史的記述がある。

- 江戸時代: 寺町堀と呼ばれ、幅約7.2メートルの堀として存在
- 明治5年(1872年): 西堀に改称
- 昭和30年代: 堀の水が流れず不衛生、自動車交通への対応が課題に
- 昭和39年(1964年): 新潟国体開催に向けて埋め立て決定、実施

堀セクション(20ページ)では、以下のような方向性が示されている。

街を縦横に結んでいた堀は埋め立てられて道路となっていますが、人や物資の交通網としての役割は現在でも変わっていません。みなとまち新潟の象徴であった、堀があった歴史や面影などを次代に引き継ぐことができるような空間づくりを目指します。

➡この記述から、**西堀を含む旧堀跡地の歴史性を重視し、その記憶を継承する空間づくりを目指していることが読み取れる。**

西堀ローサは地下街として西堀跡地の一部を活用している施設であり、このビジョンの文脈では「**堀の歴史を次代に引き継ぐ空間**」の一つとして位置づけられる可能性があります。

出典: 古町地区将来ビジョン、令和2年3月、新潟市政策企画部

古町花街エリア(ポートヒストリーエリア) ~湊町新潟の歴史と文化が薫るまち~

- 古町芸妓などの花街(柳都)の歴史文化、料亭・割烹をはじめとする新潟の魅力的な食文化を有する
- 歴史的な建造物が多く残り、みなとまち新潟の歴史を感じる街並みとなっている



砦谷小路エリア(古町ステーションエリア) ~新潟の今と歴史が交差する~

- 市役所ふるまちなし庁舎や中央区役所といった行政機能や銀行・証券会社等の業務機能が集積
- 公共交通等の都市機能が集積する「都心軸」と歴史が積み重ねられた軸である「通」が交差



古町モールエリア(センターステージエリア) ~ヒト・モノ・コトの交流舞台~

- オバー・アーケードが設けられ、セレクトショップやファッション等の専門店が集積
- ド・カノン像やマンガの家、古町演芸場といった様々なカルチャー機能を有し、各種イベントの場となっている



本町エリア(ニイガタリアルライフエリア) ~地元の味も人情も楽しめる~

- 野菜や魚介類をはじめとする生鮮品の店舗や市場(露店)が集積
- 大型スーパーや医療関連施設が立地するほか、隣接する人情横丁には個性的な店舗が集積



上古町エリア(ミックスカルチャーエリア) ~古さと新しさのある白山公園に続く文化門前町~

- 若者向けセレクトショップやファッション店などが集積
- 昔ながらの建物をおしゃれにリノベーションして活用している店舗が集積



3 資料(新潟市の計画など)

【都市計画分野等】10. 新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン(2023年3月)

- 新潟市が2023年3月に策定した「新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン」であり、「にいがた2km」構想の中核エリアである新潟駅および万代地区の将来像を描いたものである。
- 新潟開港150周年を契機に策定された「新潟都心の都市デザイン」(2018年7月)の具体化と、都市再生緊急整備地域に指定され、官民連携による開発機運が高まっている状況を踏まえ、新潟駅及び万代地区周辺における将来像と方向性を示している。

1)基本コンセプト

『人中心のまち』へ - つながる「2核・水辺・3モール」

- 新潟駅周辺と万代地区の「2つの核」
- 信濃川の豊かな「水辺空間」
- 都心軸と両副軸(弁天ルート、花園ルート)の「3モール」

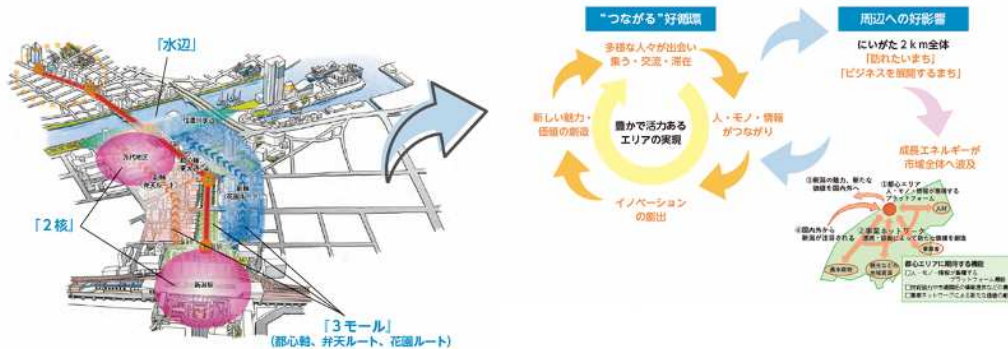


上記の実現に向け、5つの方針と特色ある10のストリートの将来の姿を描き、磨き上げ、それぞれを「つなげる」ことで、エリア全体の魅力と価値を相乗的に高めていく。

2)エリアの位置づけ

- 「にいがた2km」:新潟駅から万代、古町、万代島へ連なる約2kmの都心軸周辺エリア
- 県都新潟市の陸の玄関口として、広域交通の結節拠点機能を有する
- 都市再生緊急整備地域(2021年9月指定)として開発機運が高まっている

新潟駅・万代地区周辺を「特色ある10のストリート」でつなぎ、新たな魅力・価値が創造される「人中心のまち」へ



出典:新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン、令和5年3月、新潟市都市政策部

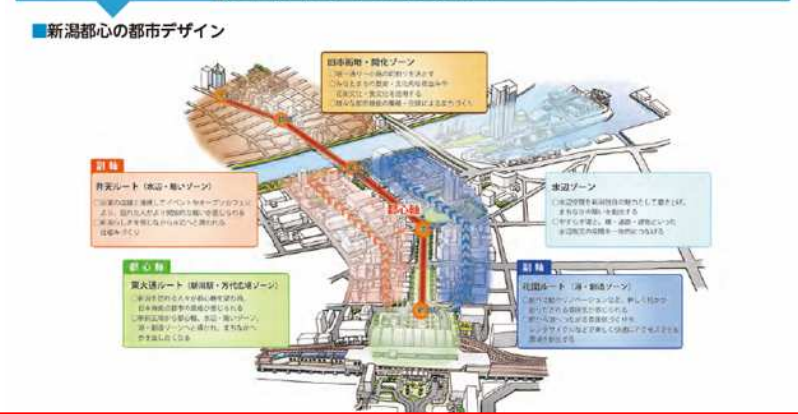
新潟市全体のまちづくり

- 新潟市総合計画
- 新潟市都市計画基本方針(多核連携型の都市像)
- 新潟市立地適正化計画(コンパクト・プラス・ネットワーク)

都心のまちづくり

- 新潟都心の都市デザイン

開港から150年をかけて形成されたきた不動の軸(新潟駅~古町)を、次世代のアイデンティティとしていく



都心のまちづくり【「にいがた2km」の覚醒】

【基本方針】

- I. 人・モノ・情報の中心拠点となる 稼げる都心づくり
- II. 都心と8区の魅力・強みのコラボレーションによる 新たな価値の創造
- III. 居心地が良く、市民が主役になるまちづくり



3 資料(新潟市の計画など)

【都市計画分野等】10. 新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン(2023年3月)

3) 将来ビジョンの5つの方針

- ①歩行者空間づくり - 居心地がよく歩きたくなる空間を形成
- ②基盤づくり - まちなかの交通環境を整える
- ③安心・安全な環境づくり - 安心・安全で持続可能な都市環境を形成
- ④魅力づくり - エリア固有の資源を活かした魅力を再発見し、磨く
- ⑤仕組みづくり - 官民連携でまち・人を育て、発信する

4) 「にいがた2km」のシティブランディング

上記3)の方針⑤の仕組みづくりにおいて、シティブランディングとして、

「にいがた2km」を推進。

エリアを象徴するストリートの愛称を設定し、エリアイメージを強化を目的としている。

5) 10のストリートの将来像

エリア内の特色ある10のストリートごとに、ウォーカブルな将来の姿を設定



出典: 新潟駅・万代地区周辺将来ビジョン、令和5年3月、新潟市都市政策部



6) 古町地区との関連性

このビジョンは、新潟駅・万代地区周辺を対象としているが、「にいがた2km」の概念の中で古町地区と一体的なまちづくりを目指している。

- ・ **都心軸により新潟駅から古町まで連続的につながる**
- ・ 萬代橋通が「駅・万代地区と信濃川、古町地区をつなぐメインストリート」として位置づけ
- ・ 将来ビジョンの実現により、**古町地区への回遊性向上**が期待される

7) 西堀地下施設との関連性

本ビジョンには西堀ローサについての直接的な記載はないが、以下の観点から間接的な関連性が考えられる。

- ①回遊性の向上
新潟駅・万代地区から古町地区への人の流れが活性化することで、西堀ローサへの来訪者増加が期待される
- ②公共空間の活用
ビジョンでは公共空間の利活用推進を掲げており、この考え方は西堀ローサのような既存地下空間の活用にも適用可能
- ③エリアプラットフォームによる連携
将来的に古町地区の関係者もプラットフォームに参加することで、西堀ローサを含む一体的な議論が可能

